

2 新潟県地すべり災害年表

発 生 年 月 日		災 害 内 容
西 暦 (年号・年)	月 日 (旧暦月日)	
762 (天平宝字6年)	(5.9)	上越後に大地震、信濃国に被害あり。(M7.4)〔松本砂防のあゆみ〕
734 (天平6年)	—	大地震、山崩れの記載あり。〔越後年代記〕
863 (貞観5年)	7.10 (6.17)	越中・越後：山崩れ 谷埋まり、水湧き、民家破壊し、圧死者多数、直江津付近にあった数個の小島壊滅したという。〔理科年表18〕〔日本三大実録前編〕
989 (永祚元年)	—	大地震、大洪水アッテ頸城郡海湧山崩アリと口碑に伝タリ。〔訂正 越後頸城郡誌稿〕
1099 (康和元年)	(4.5)	越後、越中、加賀、能登地震。〔手取川災害略誌〕
1176 (安元2年)	(10.10)	堀切(現湯沢町)に地送りがあり、魚野川を塞ぎ止め、神立辺まで大海となる。〔上田庄村々明細帳〕〔湯沢砂防25年のあゆみ〕
1417 (応永24年)	—	魚野地村で長さ280間、厚さ70間押し出し、谷川を塞ぎ田畑を埋め、他へ移住する。〔堀之内町史〕
1501 (文亀元年)	(7.10)	越後南西部に地震、信濃の国にも被害あり。(M6.9)〔松本砂防のあゆみ〕
	1.28 (12.10)	越後南西部：地震・越後の国府(現上越市)で潰家、死者多数、会津でも強く揺れた。(M6.5~7)〔理科年表62〕
1517 (永正14年)	7.18 (6.20)	越後：地震・倒家が多かった。史料少なく詳細不明。〔理科年表64〕
1614 (慶長19年)	11.26 (10.25)	越後高田：地震・従来、越後高田の地震とされていたもの。大地震の割に史料が少なく震源については検討すべきことが多い。京都付近の地震とする説がある。〔理科年表75〕
1637 (寛永14年)	(11.6)	夜、魚沼郡外丸村(現津南町)付近で地震、鍋倉・榎木山で地すべり。土石流が発生し、麓の原村を呑み込む。〔津南町史〕
1665 (寛文5年)	2.1 (12.27)	越後西部：積雪14~15尺のときに地震。高田城破損、侍屋敷700余潰れ、民家の倒潰も多かった。夜火災、死者1,500人。(M6¾)〔理科年表104〕
1670 (寛文10年)	6.22 (5.5)	越後村上：地震・上川四万石のうち農家503軒潰れ、死者13人、盛岡・江戸でも有感。(M6¾)〔理科年表109〕
1678 (延宝6年)	(10.)	亀脇・堂釜村〔現小木町〕で大地すべりが起こる。全半壊40戸。〔小木町歴史年表〕〔佐渡年代史〕
1679 (延宝7年)	(7.20)	堂釜村(現小木町)大山崩れがあり、海へ3~40間ほどつき出す。〔年代記〕 20日から22日迄大雨が降った。そのために、縦260間、横180間のところがぐずれ落ち、家8軒を含めて海へ数町突出した。〔小木町の村の歴史上巻〕
1681~1683 (天和元~3年)	—	東頸城郡松之山町新山地区に地すべり発生、部落全戸移転。〔地すべり調査総括書Ⅰ〕
1698 (元禄11年)	(4.8)	六箇村(現十日町市)大貫山崩れ。〔中魚沼郡内水害年表〕
1709 (宝永6年)	(3.9)	小川庄室谷村(現上川村)で山崩れ、長138間、横44間崩落。〔会津藩家世実記〕
1716~1735 (享保元~20年)	—	東頸城郡牧村神谷地区に地すべり発生、耕地60ha埋没。〔地すべり調査総括書Ⅰ〕
1736 (元文元年)	(5.~9.)	出雲崎町、大雨による山崩れで、妙福寺、土中に埋没。〔三島郡誌〕
1738 (元文2年閏)	1.3 (11.13)	中魚沼郡：地震・蘆ヶ崎村(現津南町)付近で14日朝までに80回に及ぶ。蔵の壁損じ、釜潰れる。信州青倉村(栄村)で家蔵破損。(M5½)〔理科年表154〕

発 生 年 月 日		災 害 内 容
西 暦 (年号・年)	月 日 (旧暦月日)	
1751 (寛延4年) (宝暦元年)	5.21 (4.26)	越後・越中：地震・高田城で所々破損、町方3ヶ所から出火した。 鉢崎・糸魚川間の谷で山崩れ多く、圧死者多数、富山・金沢でも強く感じ、日光で有感、全体で、死者1,500人以上、余震が多かった。(M7~7.4)〔理科年表160〕 午前2時頃、名立小泊村(現名立町)で延長約1km・高さ160mが崩れ、民家91戸のうち無事だったものわずか3戸、埋没81戸、全壊4戸、半壊3戸、その他、陣屋1、寺1、社家1が埋没、半壊寺2。死者428人。(名立崩れ)
	—	西頸城郡能生町横で大林から抜山の間800mに地すべりが発生し、人家5戸が埋没し、1人が圧死した。
	—	栃尾郷中野俣地内で地すべり発生、127戸移転。新山・篠窪2集落に分かれた。(～1763年) 〔地すべり調査総括書1〕
1752 (宝暦2年)	—	栃尾郷中野俣地内で地這り。長さ2km、幅300～400mに及ぶ。120戸移転。〔栃尾郷誌〕
1762 (宝暦12年)	10.31 (9.15)	佐渡：地震・石垣、家屋が破損、銀山道が崩れ、死者があった。鶴島村で津波により26戸流出、新潟で地割れを生じ、砂と水を噴出、酒田、羽前南村山郡・日光で有感。(M7) 〔理科年表166〕
1783 (天明3年)	(6.1)	北魚沼郡守門村東野名地内に地すべり発生。土砂が破間川を塞ぎ止める。上流人家に被害。 〔地すべり調査総括書1〕
1802 (享和2年)	12.9 (11.15)	佐渡：巳刻の地震で微小被害、未刻の地震は大きく佐渡3郡全体で焼失328、潰家732、死者19、島の西南海岸が最大2m強隆起した。鶴岡で強く感じ、米沢・江戸・日光・高山・秋田・弘前で有感。(M6.5~7)〔理科年表196〕
1807 (文化4年)	—	三島郡出雲代官所、山崩れで大破。〔三島郡誌〕
1824 (文政7年)	(4.13)	当冬大雪、大雨にて種芋原村枝郷中野(現山古志村)地内に地すべり発生、倒壊人家51戸、田畑損耗2町2反余。〔山古志村史〕
1828 (文政11年)	12.18 (11.12)	越後：激震地域は信濃川流域の平地、三条・見附・今町・与板などで被害が大きかった。文献によると全体で全潰9,808、焼失1,204、死者1,443であるが、実際はもっと多かつたらしい。地割れから水や砂の噴出がみられたり、流砂現象が見られた。(M6.9)〔理科年表210〕
1830 (天保元年)	—	東頸城郡松之山町中尾地内に地すべり発生。部落全戸に被害。〔地すべり総括書1〕
1833 (天保4年)	12.7 (10.26)	羽前・羽後・越後・佐渡：地震 庄内地方で特に被害が大きく、潰家475、死者42、津波が本庄から新潟に至る海岸と佐渡を襲い、能登で大破出家屋約345、死者約100。(M7½) 〔理科年表215〕
1847 (弘化4年)	2.15 (1.1)	越後高田：諸所破損、長屋も破損〔理科年表227〕
	5.8 (3.24)	信濃北部及び越後西部『善光寺地震』：被害範囲は高田から松本に至る地域で、特に水内・更級両郡の被害が最大だった。松代領で潰家9,550、死者2,695。飯山領で潰家1,977、死者586。善光寺領で潰家2,285、死者2,486など。全国からの善光寺の参詣者7～8千のうち、生き残ったもの約1割という。山地で山崩れが多く、松代領では4万ヶ所以上、虚空蔵山が崩れ犀川をせき止め、上流は湖となったが、4月13日に決壊して流出家屋810、流死者100余。(M7.4) 〔理科年表228〕
	5.13 (3.29)	越後頸城郡：善光寺地震の被害と区別できないところが多い。潰家・大破ならびに死傷があった。地割れを生じ、泥を噴出し、田畑が埋没したところもあった。(M6½)〔理科年表215〕
1860 (万延元年)	—	刈羽郡高柳町栃ヶ原地内で地すべり発生。被害面積50ha、家屋10数戸移転。〔高柳町史〕
1866 (慶応2年)	(5.27)	西頸城郡能生町柵口地内で地すべり発生。倒壊埋没：人家11戸、神社1棟、半壊：寺1棟。
1868 (慶応4年)	(4.8)	千曲川7回出水、越後平野は大洪水となる。〔信濃川百年史〕
1869 (明治2年)	—	三島郡出雲崎町、山崩れにより円明院倒壊、死者1名。〔三島郡誌〕

発 生 年 月 日		災 害 内 容
西 暦 (年号・年)	月 日	
1872 (明治5年)	—	東頸城郡沖見村(現牧村)で地すべり発生。地すべり土量960万m ³ 。〔砂防百年誌〕
1877 (明治10年)	—	西頸城郡青海地区外之沢で高さ50尺、幅100間に及ぶ土砂崩れで民家2戸埋没、6名死亡。〔地すべり調査総括書Ⅱ〕
1886 (明治19年)	7.23	信越国境：地震 家屋倒壊、道路・石垣破損、山崩れなどの小被害、上高井地方で前震があった。(M5.3)〔理科年表〕
1887 (明治20年)	—	東頸城郡湯本村(現松之山町)に地すべり発生。民家被災のため移転。〔松之山町誌〕
1896 (明治29年)	7.20~22	新潟県の洪水は古今無比の大災害にして県下全部多少の被害なきところなく、就中西蒲原郡を以て最大となす。建物の流出破壊1万余戸、浸出家屋6万余戸、死者78名。〔新潟県水災状況〕
1897 (明治30年)	— 7.	東頸城郡松里村大字湯本(現松之山町)で地すべり発生、上湯地区は6戸を残し全戸移転。〔松之山町史〕 西頸城郡能生町仙納で地すべり発生、倒壊家屋4戸、死者4名、立退6戸。〔能生町の地すべり〕
1900 (明治33年)	—	筒石、人家20戸の他、役場、小学校、寺院、郵便局など被害、国道交通不能。 (地じり及び山崩)
1902 (明治35年)	5.19	中頸城郡矢代村(現新井市)、粟立山で地すべり発生。全壊2戸、半壊4戸、土石流が発生し、死者1名。〔新潟県の地すべりの現況と対策〕
1904 (明治37年)	11.	東頸城郡松之山村(現松之山町)で地すべり発生。地すべり土量1,290万m ³ 、645ha埋没。
1905 (明治38年)	3.	西頸城郡能生町小泊地内で地すべり発生。地すべり土量100万m ³ 、50ha埋没。
1910 (明治43年)	4.	北魚沼郡守門村東野名地すべり。耕地35ha、山林70ha押出し、川を塞止める。
1916 (大正5年)	9.25~27	北陸線筒石駅裏山で地すべり発生。線路100mと駅の建物を倒壊し、海中まで押出した。〔能生町の地すべり〕
1918 (大正7年)	—	刈羽郡南鯖石村(現柏崎市)、小清水地すべり・民家10戸倒壊、水田7ha、畑3ha、山林1haの他神社、分教場などの被害もあり。〔南鯖石村小清水地災調査報文〕
1921 (大正10年)	—	東蒲原郡、磐越線小島トンネルで山崩れのため列車転覆、死者9名、重軽傷者200人になる。〔日本の雪害史〕
1922 (大正11年)	2.26~27	西頸城郡能生町大洞地区で地すべり発生。被害面積8ha。うち田5ha、畑2ha、原野1ha、小学校危険のため移転、人家倒壊1戸、半壊2戸、土蔵倒壊1棟。
1926 (大正15年)	7.28	刈谷田川上流栃尾郡、破間川、五十嵐川に豪雨あり、山岳は崩れ溪谷を埋め、森林橋梁相次いで流れる。被害は溺死83名、行方不明23名、流出家屋465戸。〔気候と天災誌〕
1927 (昭和2年)	2.14	新潟県西頸城郡磯部村(現能生町)大洞地すべり発生。17戸倒壊、12人死亡、10ha被害、全村全滅。〔気象災害〕
1929 (昭和4年)	3.2 8.5	西頸城郡能生町大洞地内で地すべり発生。被害面積5ha。うち田3ha、畑1ha、倒壊家屋7戸。 西頸城郡能生町柱道地内で、豪雨により地すべり発生、被害面積4ha。末端の泥は堂ヶ谷を流下し、家屋倒壊2戸、3戸危険なため立退かせた。〔能生町の地すべり〕
1934 (昭和9年)	2.9	西頸城郡川詰部落において、背後の竹の沢から地すべり発生。死亡2名、倒壊埋没家屋1戸、埋没流出した水田3ha。〔能生町の地すべり〕
1935 (昭和10年)	9.25	台風による豪雨により、魚沼地方各河川増水し、土石流、破堤による各所で被害。〔湯沢砂防25年のあゆみ〕
1936 (昭和11年)	9.25	台風による豪雨で、魚沼地方に災害、土石流も発生した。〔湯沢砂防25年のあゆみ〕

発 生 年 月 日		災 害 内 容
西 曆 (年号・年)	月 日	
1937 (昭和12年)	11. 6	柏崎市南鯖石の峠下で地すべり発生。死者3名。被害面積8ha。
1943 (昭和18年)	5.	小千谷市岩沢・冬井で地すべり発生。死者1名、負傷者2名、被害面積1ha。
1945 (昭和20年)	4.29	古志郡太田村(現長岡市)濁沢地すべり発生、死者3名、負傷者5名、人家全壊2戸、半壊2戸。〔日本の雪害史〕
1946 (昭和21年)	12.12	西頸城郡名立町地内で地すべり発生。民家5戸埋没、田畑5ha流出。〔日本の雪害史〕
1947 (昭和22年)	5.19 —	西頸城郡能生谷町柵口地内に地すべり発生、被害面積200ha、倒壊家屋53戸。〔能生町誌〕 東頸城郡松之山村(現松之山町)上湯地内で地すべり発生。被害戸数38戸。〔松之山町史〕
1948 (昭和23年)	12.	北魚沼郡入広瀬村芋鞘新田地にり発生、民家11戸、面積7haの被害。 〔芋鞘新田地すべり調査報告〕
1950 (昭和25年)	4.	東頸城郡松代町蒲生地にり発生。被害民家19戸、被害面積6ha。〔新潟県の砂防〕
1951 (昭和26年)	3.15	西頸城郡能生町仙納地内で地すべり発生、被害面積5ha、人家1戸破壊、1戸傾き、山林0.3ha。 〔能生町の地すべり〕
1953 (昭和28年)	3.27 3.29	西頸城郡下早川村(現能生町)能生谷に地すべり発生。〔建設のすがた〕 東頸城郡松之山村(現松之山町)東川地内に地すべり発生。〔建設のすがた〕
1956 (昭和31年)	3. 12.17	三島郡和島村北辰中学校の裏山崩れ、校舎の一部埋没、体育館取り壊した。 西頸城郡能生町徳合で地すべり発生(袋地すべり)、人家1戸16m陥落し、1戸は危険なため取り壊した。田1.8ha、畑1ha、山林0.7haに被害。〔能生町の地すべり〕
1957 (昭和32年)	4.12 7.23 12.13 12.30	中魚沼郡津南町樽田(日曹炭坑)地内で地すべり発生(樽田地すべり)。死者18名、重傷者1名、人家被害3戸。〔津南町誌〕 西頸城郡能生町中尾で地すべり発生。田2.3ha、山林0.7ha、原野3haが被害を受け、人家10戸が傾いた。〔能生町の地すべり〕 中頸城郡妙高高原町南地獄谷にて、地すべり発生、死者2名。〔地すべり総括書Ⅰ〕 西頸城郡能生町高倉地内で大地すべり発生。地すべり面積21ha、高倉川を塞ぎ止めた。 〔能生町の地すべり〕
1958 (昭和33年)	1.13 3.15 5.18~19 12.12	栃尾市平地内で地すべり発生。人家被害10戸、被害面積10ha。 十日町市下条、塩野地内で地すべり発生。人家被害13戸、被害面積13ha。 中頸城郡矢代町(現新井市)に地すべり発生。 栃尾市下来伝地内で地すべり発生。人家被害40戸、被害面積20ha。
1961 (昭和36年)	2.13 2.	中頸城郡板倉町玄藤寺地内に地すべり発生。〔建設のすがた〕 清里村雁平川地域、長さ100m、幅30m移動、人家5戸倒壊、油井にも被害あり。
1962 (昭和37年)	1.28 3.16 4. 8 11~翌年12月上旬	中頸城郡板倉町上久野で地すべり発生。人家1戸倒壊、3戸床下亀裂。 〔新潟県地すべりの現状と対策〕 栃尾市東中野俣の新山集落の裏山で地すべり発生。(袖峯地すべり)。死者6名、負傷者2名、倒壊家屋4戸。〔栃尾市史〕 東頸城郡松之山村町地内に、大規模の地すべり発生。被害面積800ha、倒壊家屋296戸。 〔松之山町史〕 松之山地すべり発生。12月上旬には850ha規模に発展(松之山地すべり)。倒壊家屋371戸、学校4棟、公共建物15棟、水田349.9ha、畑地78.0haの被害。県道5,400m、町道14,800mに及ぶ。 〔松之山町誌〕
1963 (昭和38年)	3.16 4.	西頸城郡能生町小泊地内で、午後4時10分頃、白山トンネル裏山から大地すべり発生(小泊地すべり)。北陸線日本海に押し出す。列車転覆、死者2名、行方不明2名、負傷者21名、家屋全壊27戸、半壊4戸。〔能生町誌〕 東蒲原郡上川村室谷で地にり発生。民家5戸取り壊し、10戸避難、被害面積10haにおよぶ。 〔日本の雪害史〕

発 生 年 月 日		災 害 内 容
西 暦 (年号・年)	月 日	
1964 (昭和39年)	6.16 7.8	新潟地震発生。(M7.7)〔わが国の災害誌(統)〕 西頸城郡能生町新戸地内で、地すべり発生。倒壊、破損家屋16戸。〔能生町誌〕
1966 (昭和41年)	7.17	県北部集中豪雨で北蒲原郡黒川村胎内地内に土石流災害発生。死者1名、全半壊3戸。
1967 (昭和42年)	5.3 8.28	糸魚川市大所地内地すべり発生。被害面積50ha、第2発電ダム埋没、大所川を塞ぎ止める。 〔地すべり調査総括書Ⅰ〕 羽越水害により荒川、胎内川、加治川流域で大規模な山崩れが随所に発生して、土石流となり、死者・行方不明146名、全半壊流出1,584戸。銚江沢川筋の被害は、死者24名、建物187戸。 〔黒川村誌、わが国の災害誌(統)〕
1969 (昭和44年)	4.26 8.9 8.11	北魚沼郡広神村水沢新田地内に、地すべり発生。死者7名、倒壊破損家屋10戸。〔広神村誌〕 西頸城郡青海町外波川流域に、土石流災害発生。〔続青海〕 魚野川右支三国川において集中豪雨の直撃を受け、土石氾濫及び鉄砲水により、死者6名を始め莫大な被害。〔湯沢砂防25年のあゆみ〕
1970 (昭和45年)	1.22 —	小千谷市川井地内の国鉄高場山トンネル崩壊、飯山線313日間不通。 西頸城郡能生町島道地内に地すべり発生。崩壊破損家屋4戸。〔能生町誌〕
1971 (昭和46年)	12.31	中頸城郡妙高高原町新赤倉地内の赤倉山山腹において、温泉地すべり発生(妙高温泉地獄谷地すべり)。土石流により死者1名、倒壊人家1戸。〔妙高高原町誌〕
1972 (昭和47年)	12.12	西頸城郡能生町島道地内に地すべり発生、倒壊家屋4戸。〔能生町誌〕
1976 (昭和51年)	4.18	北魚沼郡小出町、駅前・四日町山腹斜面に亀裂が発生、38世帯120名に避難を命じた。
1978 (昭和53年)	5.18	中頸城郡妙高高原町新赤倉地内の赤倉山山腹の国有林で地すべり発生(妙高地すべり)。白田切り川流域に土石流災害発生。死者13名、倒壊・破損家屋24戸、信越線112日間不通。 〔妙高高原地すべり災害概要〕
1980 (昭和55年)	4.9 12.30	古志郡山古志村、虫亀地じり発生。幅200m、長さ1.5km、面積20.6km ² 、県道200m不通。 長岡市濁沢地内に地すべり発生(濁沢地すべり)。倒壊破損家屋12戸。
1981 (昭和56年)	1.25 4.13	新井市上馬場地内に地すべり発生(上馬場地すべり)。倒壊破損家屋8戸。 岩船郡関川村中東地内で地じり発生、藤沢川を塞ぎ止め、民家65戸に被害があった。
1982 (昭和57年)	1.5	新井市長沢地内に地じり発生(よしお沢地じり)。同年2月23日拡大、倒壊破損家屋1戸。
1984 (昭和59年)	5.15	長岡市蓬平町五反田地内に地すべり発生(蓬平地じり)。倒壊破損家屋6戸、半壊1戸、土砂流入1戸。
1985 (昭和60年)	2.15	中頸城郡青海町市振字玉ノ木地内に地すべり発生(玉ノ木土砂災害)。死者10名、負傷者4名、倒壊破損家屋、全壊5戸・半壊2戸、寺神社全壊2棟。
1991 (平成3年)	3.21 8.31	栃尾市入塩川地内に地すべり発生(入塩川地すべり)。家屋破損6戸、倉庫、車庫破損6棟。 糸魚川市小滝地内に地すべり発生(小滝地すべり)。
1992 (平成4年)	7.18	東頸城郡松之山町松之山地内において、地すべり活動が拡大。県道50m、町道320m、町立体育館、テニスコート、駐車場等に亀裂発生。
1994 (平成6年)	4.14	糸魚川市大所地内に地すべり発生(大所地すべり)。県道500mに被害発生。
1995 (平成7年)	7.11	7月10日から降り始めた梅雨前線豪雨により、関川・姫川両水系を中心とした上越地方に大きな被害が発生。その後の降雨により県下全般に被害が拡大し、被害額は羽越災害を上回る未曾有の災害となる。
1996 (平成8年)	12.6	糸魚川市大所(長野県境)の蒲原沢において土石流が発生し、災害復旧事業に従事する作業員14名が死亡〔12.6蒲原沢土石流災害〕。

(注) 1.本表は、現在まで明らかになっている、新潟県内で発生した主要な地すべり災害及び関係災害を含めて掲載した。
2.北陸本線の地すべり災害については、本文Ⅱ-1.2の(4)に掲載した。